

平成22年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1473600649	事業の開始年月日	平成15年12月1日
		指定年月日	平成15年12月1日
法人名	株式会社 ライフコミュニケーション		
事業所名	ライフコミュニケーション泉		
所在地	(〒245-0016) 神奈川県横浜市泉区和泉町3285-3		
サービス種別 定員等	小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
		通い定員	名
		宿泊定員	名
	レ 認知症対応型共同生活介護	定員計	27名
		工外数	3工外
自己評価作成日	平成22年12月1日	評価結果 市町村受理日	

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>基本理念の「リーダーシップは、入居者である」に基づき、一人ひとりの「個性」「尊敬」「生命」を守り、活力ある生活を支え寄り添うようなケアを目指しています。そして、入居者が中心であるといった理念から「ご家族様と一緒に楽しんで頂くこと」を大切にしております。いつでも御家族様が気軽にお越し頂けるように、温かいおもてなしを心がけています。また、運営推進会議が開催されるようになってから、地域の方との交流も深まり、家庭菜園を手伝って頂き、収穫を迎えると、御家族様とカレーパーティーや納涼祭を毎年行っています。また、「敬老会」「クリスマス会」などの催事にもボランティアの方に出演していただく等、温かく見守って頂いていることを感謝しています。今後も、入居者様や御家族様が安心できる温かいグループホーム作りを目指していきたいと思っております。</p>
--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社団法人 かながわ福祉サービス振興会		
所在地	神奈川県 横浜市 中区本町2-10 横浜大栄ビル8 階		
訪問調査日	平成23年1月21日	評価機関 評価決定日	平成23年4月5日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>【事業所概要】 この事業所は、相模鉄道いずみの線いずみ中央駅から徒歩10分ほどの閑静な住宅地の一角に位置している。建物は鉄筋コンクリート造り3階建てである。各ユニットにはアイランド型キッチンを設置している。調理しながらリビング全体が見渡せ、利用者にも後片付けを手伝ってもらいながら一緒に生活を楽しんでいる。室内は清掃も行き届いて清潔である。</p> <p>【医療と健康管理】 利用者の診療については、かかりつけ医や協力医療機関の医師から適切な医療が受けられるように支援している。かかりつけ医を受診する場合には職員が同行することもあり、診察の際には本人のホームでの状況を伝えている。受診結果は家族と共有している。また、協力医（内科、歯科）による週1回の訪問診療があるほか、薬剤師の訪問が月2回あり、利用者の健康管理にあたっている。利用者の心身の変化や緊急時にはいつでも協力医や登録病院の医師に相談や対応ができる体制がある。</p> <p>【温かいグループホーム作り】 入居者を中心に家族も一緒に楽しんでもらえるように職員は笑顔を持ってサポートしている。家族や友人、知人がいつでも気軽に訪問できるように「温かいおもてなし」を心がけて対応している。 玄関、各ユニットの入口、リビングや居室には観葉植物、季節の花の鉢植えや泉流のミニ生け花、散歩時に摘んできた草花を飾り、利用者や訪問者の心がなごむように工夫している。 食事やおやつに使われる器は、料理に合わせた様々な形のものを使用しており、盛り付け、彩りを工夫し、食欲をそそるように配慮している。</p>

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	ライフコミュニケーション泉
ユニット名	泉ユニット1

アウトカム項目	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23.24.25)
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18.38)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36.37)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30.31)
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9.10.19)
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9.10.19)
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11.12)
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念を掲げ、理念に基づいてケアを行うように心がけている。理念として、入居者様の1人ひとりの個性や尊厳が守られ寄り添うようなケアを行うように努めている。	理念は玄関、各ユニットのリビングや更衣室に掲示している。新人のオリエンテーションやユニット会議で話し合い理念を職員間で共有している。利用者との日々の生活の中で実践につなげている。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的とは言えないが、家庭菜園のお手伝いを地域の方がやってくれたり、夏祭り、敬老会などのイベントに招待するなど、交流を図るよう努めている。	自治会に加入し、行事に利用者と一緒に参加している。近所の介護タクシーを外出時に利用している。また、その方がボランティアとして協力してくれることもある。幼稚園児との交流も実現できた。	目標達成計画に基づき、さらに小学生や中学生などと交流が広がるようにアプローチすることを望みたい。
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	以前、介護者教室などを行い地域の方に認知症について、少しでも理解して頂けるようにと思っていたが、最近実践できていない為、今後の課題としていきたい。		
4	3	運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、3ヶ月に1回の割合で開催し、運営状況を報告している。区の担当者や包括支援センターの担当者の方にも毎回出席していたが、アドバイスを頂いている。	会議は3ヶ月に1回開催している。事業所の活動状況や外部評価結果について報告し、意見や助言をもらっている。区の担当者や地域包括支援センターの職員も参加している。	自治会関係者や地域住民の代表者の参加も促し、さらに地域に密着した活動が行えるように期待したい。
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	泉区認知症高齢者グループホーム連絡会に参加し、情報交換を行っている。消防署からの情報や各事業所との意見交換を行うなど区担当者からのアドバイスも頂く機会を持つようにしている。	区の担当者とは運営推進会議を通じて顔なじみの関係ができています。事業所の状況の報告や各種手続きなど分からないことを相談している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修や全体会議にて「拘束」について話をする機会を設け正しく理解してもらうように努めている。また、鍵をかけない代わりに鈴などで無断外出などの事故を予防するように努めている。	研修では、「身体拘束ゼロへの手引き」などによって利用者への身体拘束を行わないよう職員に周知している。玄関は防犯上施錠しており、家族は了解している。各ユニットや居室は施錠せず自由な暮らしを支えている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修にて職員が再認識する機会をもつようにしている。 職員一人ひとりが理解し、日頃から意識することが、大切だと周知している。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加し学ぶ機会をもつようにしている。実際は、対応する機会も少ないが今後、必要性があれば、対応していきたい。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前には必ず、重要説明書を読みわかりやすく説明しているが、不十分なところがないかどうか、確認しながら行なっている。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的に家族懇談会を行っており、意見や要望などを聞く機会を設けている。また、玄関に意見箱を用意し自由に、意見が記入出来る様にしている。	家族の来訪時や家族会、運営懇談会、運営推進会議などで意見や要望を聞く機会を設けている。苦情や要望が伝えられた時は速やかに管理者に報告し、対応できるように取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	施設長会議、全体会議を行い運営に関する意見などを聞く機会を設けている。また、会社の本社から、社長や支店長、取締役などが、施設に巡回に来られ現場職員の意見を直接吸い上げ、意見を聞いて対応してくれる。	毎日の申し送りやユニット会議で意見や提案を聞く機会を設けている。食事の献立が偏っていることについての意見があり、改善された。役員は事業所の巡回時に職員から意見を聞いており、法人の施設会議で報告され、運営に反映させている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人では、施設巡回を重視し職員や管理者の勤務状態を把握し、必要に応じヒヤリングを行うなど、現場の様子を把握し勤務条件の整備をしている。		
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内外部研修を積極的に、行うように、現場に指導している。また、法人では、ヘルパー2級講座などを開講しており、働きながら、資格取得が出来るようにしている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	横浜市や神奈川県ของกลุ่มホーム協会に入会しており、協会の主催する研修などに参加し、情報交換や交流を深めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には、アセスメントに行き状態を把握すると共に、困っていること、要望などを聞き、安心してサービスを受けられるよう努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族と面談する中で、今までの状況や困っている事や要望などを聞き、安心していただけるように努めている。また、困ったことがあれば、いつでも相談して欲しいことを伝えている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要とされている支援を把握し、状況に応じた適切な支援を行うように努めている。また、場合によっては、他のサービス機関に連絡をとるようにしている。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の残存能力をできる限り、活かし生活の中でお花を飾って頂いたり、洗濯たたみなどを手伝ってもらい、共に生活していく環境をつくるように努めている。		
19		本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	お正月など、自宅に帰宅できる場合は、出来るだけ可能になるように支援し、家族と本人の意向に沿うようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今まで関って来られた関係が、途切れないように支援している。親戚の方からの電話がかかってくる時があるが取りついでいる。はがきのやりとりなども支援している。	入居者個々の情報は、入居時のアセスメントや家族からの情報によって職員は把握している。友人、知人からの電話の取り次ぎや手紙のやり取りの支援をしている。また、馴染みの美容院やお墓参りなどに家族が付き添って出かけている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様の中にも、気の合う人合わない人はいらっしゃると思われるが、職員が把握し、状況に応じ関るようにしている。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	年賀はがきを出したり、退居後の様子をご家族に連絡をし、様子を伺うなど連絡を取っている。また、入院している場合は、面会に行くようにしている。退居後も家族様からの連絡もある。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	自分の思いや希望を言葉で表す事が困難な方であっても、顔の表情や今の辛い事をくみ取り、一人ひとりの把握に努めている。	入居時のアセスメントや日常生活の中で話を聞き把握している。意向の表現が困難な方については、日々の暮らしの中で表情や目の動きを観察したり、家族から情報を得て対応している。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や個人の意見を尊重するように努めている。家族からの情報や本人からの情報を収集し、サービス提供に努めるようにしている		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の生活習慣などを把握し、状態観察に努めている。日々の排泄や食事などのチェック表により、心身状態などの把握に努めている。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ユニット会議などを行い、ケアの見直しをし、話し合いの場を持つようにしている。	居室担当者がモニタリングを必要に応じて行い、介護計画は6ヶ月ごとに見直しを行っている。ユニット会議で利用者、家族の意見や医師の往診記録からのアドバイスを取り入れ、利用者個々に合った介護計画を作成している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	情報を共有する方法として、朝の申し送りや業務日報などで確認して介護記録に反映するようにしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様やご家族様のニーズに応えて訪問診療や訪問歯科診療、訪問美容など柔軟にサービスを取り入れるように工夫している。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの協力も得られ、家庭菜園の方法などを教えていただき、一緒に草花を育てている。入居者様も楽しみにしている。		
30	11	かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院などがあるが、本人の希望やご家族様の希望をお聞きして、受診先を決めている。	入居前からのかかりつけ医を受診している方は2名おり、受診には職員が同行する場合もある。協力医による内科、歯科の往診は週1回あり、薬剤師も月2回訪問し利用者の健康管理にあっている。利用者の心身の変化や緊急時には協力医や登録病院に相談や指示を受けられる体制がある。	
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員や訪問看護は入っていませんが、法人内に勤務している為、相談などがいつでも可能である。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院に関してだけでなく、受診する際でも協力して頂いる。認知症の方は、入院などを断わられてしまう事が多い中で、相談に応じていただいている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>ご家族と面談し主治医の指示の元、施設で可能な限りケアを行うようにしているが、看護師が常駐していない為、ご家族との連絡を大切にしている。</p>	<p>現状では終末期の利用者の受け入れは困難である。重度化した場合については、事業所として対応できる範囲を入居時に本人や家族に説明している。</p>	<p>利用者が重度化した場合に事業所として対応できる範囲を示した指針を作成することが望まれる。また、職員は必要な研修を受け、対応できる体制を作りたい。</p>
34		<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>救急法など消防署にて研修があった場合は出席している。内部研修にて報告し、情報を共有している。また、緊急マニュアルがあり、参考にしている。</p>		
35	13	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>非常用の食材、備品は常備している。災害に関しては、自治会の訓練に参加している。現在、自治会にて協力できる体制を構築中である。</p>	<p>消防署の協力を得て年3回避難訓練（うち1回は夜間想定訓練）を行っている。さらに近隣にある同法人の有料老人ホームと合同で防災訓練を行い協力体制ができている。災害時の非常用食料、飲料水や備品の備蓄及び防火設備、緊急連絡網は整っている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーについては、十分に注意している。トイレに行く時や排便などの時も、声かけには注意するように、心がけている。特に言葉遣いには気配りが大切であると周知している。	職員は、倫理、個人情報保護法やマナーについて研修を受けており、利用者の人格の尊重やプライバシーを損ねるような言葉かけ、態度をしないことに十分配慮している。利用者の個人情報に関する書類は事務所の書庫に保管している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意向や要望などを伺うようにして自己決定を促すようにしている。献立を一緒に立てたり、衣服の選択など、自己決定出来る様に支援している		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人のペースに合わせて個別ケアを行うように心がけている。食事の時間が、個人によって遅くなることもあるが、ゆっくりと個人のペースを大切にしている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	必要に応じ理美容にて、きれいにしているが髪型などは、本人の意見を尊重している。衣類も自由に選んで着ていただくようにしているが、汚れている場合は、随時取り替えるように促している。		
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立に入居者様の好きなものを聞いて作ったり、時々、出前を頼んで楽しんでもらっている。準備や片付けは出来る範囲で手伝ってもらうようにしている。	朝、昼食は利用者の希望を聞き職員が献立作成、調理を行っている。夕食は配食業者を利用している。料理に合わせて食器を使い分け、盛り付け、彩りも綺麗で食欲をそそるよう配慮がなされている。また、出前や外食も取り入れている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分、食事摂取量などのチェック表を作成し、1人1人を把握している。また、1日分のトータル量なども記入している。水分は、好みの物をお出ししている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアについては、毎食後行っている。義歯洗浄も行っている。必要に応じ訪問歯科にみていただいている。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表やお一人おひとりの排泄パターンを把握するよう努めている。自尊心を傷つけないように声かけを行うよう心がけている。	職員は利用者個々の排泄チェック表により排泄パターンを把握している。トイレでの排泄を心がけ、見守りながら声をかけて支援している。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤をできるだけ服用せず、食事やおやつなどにヨーグルトや乳製品を摂るようにし、便秘改善に努めている。また、お腹のマッサージやラジオ体操を行っている。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴日については、基本的には毎日入浴できる体制をとっている。日曜日は、ご家族様の来設が多い為、ご家族様との時間に当てるようにしているが、必要に応じ入浴している。	希望があれば毎日でも入浴できるように支援している。基本的には午後の入浴で、平均週2~3回入浴している。入浴したがない方には、無理強いせず時間をおいたり、言葉のかけ方を変えて支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの体調などにより休息が必要な方には、日中も心身ともに、過度な疲労にならないように、個別に対応するよう心がけている。		
47		服薬支援 一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬チェック表などにて、確認できるようにしている。また、処方内容をファイルしてあり、いつでも見て確認出来る様にしてある。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	調理などは、難しい方が多い為、昔お花の先生をされていた方に、お花を飾って頂くようお願いしたり、日頃から歌が好きの方は、イベントの祭に、ご披露できる場を設けている。		
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	遠くまでの外出は、なかなか出来ないが、近隣の牧場や家庭菜園の草花を採りに行ったり、その日の気分や体調を考慮しながら行っている。	職員は利用者のその日の体調に配慮しながら、散歩、買い物、外出に出かけたり、地域の催し物に参加している。また、近所の介護タクシーを利用して季節の花見、クリスマスのイルミネーションや牧場の見学に出かけることもある。	利用者個々の希望を把握し、家族やボランティアに協力を求め、戸外に出る機会を増やしていく取り組みを期待したい。
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理については、法人で立替することが決められているが、外出した際お金の支払などを、職員と一緒にするように支援している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が、家族へ電話したいという希望があれば、対応している。また、本人宛の手紙が届いた場合は、お礼の電話をかけるなどの支援をしている。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	安らげる空間作りを心がけている。カレンダーなども自然な風景画を飾るようにしている。また、庭に咲いたお花などを、飾り落ち着いた雰囲気でも過ごせるように支援している。	玄関には観葉植物や季節の花の鉢植えを置き、各ユニットの入口には、ミニ生け花や利用者の作品を飾っている。室内や食堂テーブルにも切花を置き、共用空間には行事の写真を飾っている。日中はCDで音楽を流し、穏やかな生活が送れるように工夫している。	
53		共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの周りに、いつでも自由に座れるように、椅子を置いてありフロアを歩きながら、疲れたら、休憩出来る様に工夫している。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前から、使い慣れた身の回りの物があれば、持参して頂くようにしている。家族様から送って頂いた写真なども飾り、できるだけいままでの環境と同じ様に設置するように努めている。	居室には、カーテン、クローゼット、洗面台が備え付けられている。利用者は行事で使った飾り付けの一部を壁に飾り付けたり、使い慣れたベッド、家族の写真、整理ダンスを持ち込み、安心して過ごせる部屋作りをしている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや浴室、また、居室などの表示をわかりやすく、工夫している。（絵や表札など）できるだけ安心して、生活できるように心がけている。		

平成 22 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1473600649	事業の開始年月日	平成15年12月1日
		指定年月日	平成15年12月1日
法人名	株式会社 ライフコミュニケーション		
事業所名	ライフコミュニケーション泉		
所在地	(〒245-0016) 神奈川県横浜市泉区和泉町3285-3		
サービス種別 定員等	小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
		通い定員	名
		宿泊定員	名
	レ 認知症対応型共同生活介護	定員計	27名
		工外数	3工外
自己評価作成日	平成22年12月1日	評価結果 市町村受理日	平成22年3月25日

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

基本理念の「リーダーシップは、入居者である」に基づき、一人ひとりの「個性」「尊敬」「生命」を守り、活力ある生活を支え寄り添うようなケアを目指しています。そして、入居者が中心であるといった理念から「ご家族様と一緒に楽しんで頂くこと」を大切にしております。いつでも御家族様が気軽にお越し頂けるように、温かいおもてなしを心がけています。また、運営推進会議が開催されるようになってから、地域の方との交流も深まり、家庭菜園を手伝って頂き、収穫を迎えると、御家族様とカレパティーや納涼祭を毎年行っています。また、「敬老会」「クリスマス会」などの催事にもボランティアの方に出演していただく等、温かく見守って頂いていることを感謝しています。今後も、入居者様や御家族様が安心できる温かいグループホーム作りを目指していきたいと思っております。

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名			
所在地			
訪問調査日		評価機関 評価決定日	

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

--

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	ライフコミュニケーション泉
ユニット名	泉ユニット2

アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23,24,25)	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18,38)	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30,31)	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9,10,19)	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9,10,19)	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11,12)	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念を掲げ、理念に基づいてケアを行うように心がけている。理念として、入居者様の1人ひとりの個性や尊厳が守られ寄り添うようなケアを行うように努めている。		
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的とは言えないが、家庭菜園のお手伝いを地域の方がやってくださったり、夏祭り、敬老会などのイベントに招待するなど、交流を図るように努めている。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	以前、介護者教室などを行い地域の方に認知症について、少しでも理解して頂けるようにと思っておりましたが、最近では実践できていない為、今後の課題としていきたい。		
4	3	運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、3ヶ月に1回の割合で開催し、運営状況を報告している。区の担当者や包括支援センターの担当者の方にも毎回出席していただき、アドバイスを頂いている。		
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	泉区認知症高齢者グループホーム連絡会に参加し、情報交換を行っている。消防署からの情報や各事業所との意見交換を行うなど区担当者からのアドバイスも頂く機会を持つようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修や全体会議にて「拘束」について話をする機会を設け正しく理解してもらうように努めている。また、鍵をかけない代わりに鈴などで無断外出などの事故を予防するように努めている。		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修にて職員が再認識する機会を持つようにしている。 職員一人ひとりが理解し、日頃から意識することが、大切だと周知している。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加し学ぶ機会をもつようにしている。実際は、対応する機会も少ないが今後、必要性があれば、対応していきたい。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前には必ず、重要説明書を読みわかりやすく説明しているが、不十分なところがないかどうか、確認しながら行なっている。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的に家族懇談会を行っており、意見や要望などを聞く機会を設けている。また、玄関に意見箱を用意し自由に、意見が記入出来る様にしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	施設長会議、全体会議を行い運営に関する意見などを聞く機会を設けている。また、会社の本社から、社長や支店長、取締役などが、施設に巡回に来られ現場職員の意見を直接吸い上げ、意見を聞いて対応してくれる。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人では、施設巡回を重視し職員や管理者の勤務状態を把握し、必要に応じヒヤリングを行うなど、現場の様子を把握し勤務条件の整備をしている。		
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内外部研修を積極的に、行うように、現場に指導している。また、法人では、ヘルパー2級講座などを開講しており、働きながら、資格取得が出来るようにしている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	横浜市や神奈川県グループホーム協会に入会しており、協会の主催する研修などに参加し、情報交換や交流を深めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には、アセスメントに行き状態を把握すると共に、困っていること、要望などを聞き、安心してサービスを受けられるよう努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族と面談する中で、今までの状況や困っている事や要望などを聞き、安心していただけるように努めている。また、困ったことがあれば、いつでも相談して欲しいことを伝えている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要とされている支援を把握し、状況に応じた適切な支援を行うように努めている。また、場合によっては、他のサービス機関に連絡をとるようにしている。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の残存能力をできる限り、活かし生活の中でお花を飾って頂いたり、洗濯たたみなどを手伝ってもらい、共に生活していく環境をつくるように努めている。		
19		本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	お正月など、自宅に帰宅できる場合は、出来るだけ可能になるように支援し、家族と本人の意向に沿うようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今まで関って来られた関係が、途切れないように支援している。親戚の方からの電話がかかってくる時があるが取りついでいる。		
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様の中にも、気の合う人合わない人はいらっしゃると思われが、職員が把握し、状況に応じ関るようになっている。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	年賀はがきを出したり、退居後の様子をご家族に連絡をし、様子を伺うなど連絡を取っている。また、入院している場合は、面会に行くようになっている。退居後も家族様からの連絡もある。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	自分の思いや希望を言葉で表す事が困難な方であっても、顔の表情や今の辛い事をくみ取り、一人ひとりの把握に努めている。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や個人の意見を尊重するように努めている。家族からの情報や本人からの情報を収集し、サービス提供に努めるようにしている		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の生活習慣などを把握し、状態観察に努めている。日々の排泄や食事などのチェック表により、心身状態などの把握に努めている。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ユニット会議などを行い、ケアの見直しをし、話し合いの場を持つようにしている。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	情報を共有する方法として、朝の申し送りや業務日報などで確認して介護記録に反映するようにしている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様やご家族様のニーズに応じて訪問診療や訪問歯科診療、訪問美容など柔軟にサービスを取り入れるように工夫している。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの協力も得られ、家庭菜園の方法などを教えていただき、一緒に草花を育てている。入居者様も楽しみにしている。		
30	11	かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院などがあるが、本人の希望やご家族様の希望をお聞きして、受診先を決めている。		
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員や訪問看護は入っていませんが、法人内に勤務している為、相談などがいつでも可能である。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院に関してだけでなく、受診する際でも協力して頂いる。認知症の方は、入院などを断わられてしまう事が多い中で、相談に応じていただいている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>ご家族と面談し主治医の指示の元、施設で可能な限りケアを行うようにしているが、看護師が常駐していない為、ご家族との連絡を大切にしている。</p>		
34		<p>急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>救急法など消防署にて研修があった場合は出席している。内部研修にて報告し、情報を共有している。また、緊急マニュアルがあり、参考にしている。</p>		
35	13	<p>災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>非常用の食材、備品は常備している。災害に関しては、自治会の訓練に参加している。現在、自治会にて協力できる体制を構築中である。</p>		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーについては、十分に注意している。トイレに行く時や排便などの時も、声かけには注意するように、心がけている。特に言葉遣いには気配りが大切であると周知している。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意向や要望などを伺うようにして自己決定を促すようにしている。献立を一緒に立てたり、衣服の選択など、自己決定出来る様に支援している		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人のペースに合わせ個別ケアを行うように心がけている。食事の時間が、個人によって遅くなることもあるが、ゆっくりと個人のペースを大切にしている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	必要に応じ理美容にて、きれいにしてはいるが髪型などは、本人の意見を尊重している。衣類も自由に選んで着ていただくようにしているが、汚れている場合は、随時取り替えるように促している。		
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立に入居者様の好きなものを聞いて作ったり、時々、出前を頼んで楽しんでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>水分、食事摂取量などのチェック表を作成し、1人1人を把握している。また、1日分のトータル量なども記入している。水分は、好みの物をお出ししている。</p>		
42		<p>口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>口腔ケアについては、毎食後行っている。義歯洗浄も毎回行うようにしている。 ご自分では、困難な方は、訪問歯科医からの指導で口腔内清拭など行っている。</p>		
43	16	<p>排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている</p>	<p>排泄チェック表やお一人おひとりの排泄パターンを把握するよう努めている。自尊心を傷つけないように声かけを行うよう心がけている。</p>		
44		<p>便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>下剤をできるだけ服用せず、食事やおやつなどにヨーグルトや乳製品を摂るようにし、便秘改善に努めている。また、お腹のマッサージやラジオ体操を行っている。</p>		
45	17	<p>入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>入浴日については、基本的には毎日入浴できる体制をとっている。日曜日は、ご家族様の来設が多い為、ご家族様との時間に当てるようにしているが、必要に応じ入浴している。</p>		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの体調などにより休息が必要な方には、日中も心身ともに、過度な疲労にならないように、個別に対応するよう心がけています。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬チェック表などにて、確認できるようにしている。また、処方内容をファイルしてあり、いつでも見て確認出来る様にしてある。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	調理などは、難しい方が多い為、昔お花の先生をされていた方に、お花を飾って頂くようお願いしたり、日頃から歌が好きな方には、イベントの祭に、ご披露できる場を設けている。		
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	遠くまでの外出は、なかなか出来ていないが、近隣の牧場や家庭菜園の草花を採りに行ったり、その日の気分や体調を考慮しながら行っている。		
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理については、法人で立替することが決められているが、外出した祭お金の支払などを、職員と一緒にするように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が、家族へ電話したいという希望があれば、対応しています。また、本人宛の手紙が届いた場合は、お礼の電話をかけるなどの支援をしている。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	安らげる空間作りを心がけている。カレンダーなども自然な風景画を飾るようにしている。また、庭に咲いたお花などを、飾り落ち着いた雰囲気でも過ごせるように支援している。		
53		共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの周りに、いつでも自由に座れるように、椅子を置いてありフロアを歩きながら、疲れたら、休憩出来る様に工夫している。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前から、使い慣れた身の回りの物があれば、持参して頂くようにしています。家族様から送って頂いた写真なども飾り、できるだけいままでの環境と同じ様に設置するように努めている。		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや浴室、また、居室などの表示をわかりやすく、工夫している。（絵や表札など）できるだけ安心して、生活できるように心がけている。		

平成 22 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1473600649	事業の開始年月日	平成15年12月1日
		指定年月日	平成15年12月1日
法人名	株式会社 ライフコミュニケーション		
事業所名	ライフコミュニケーション泉		
所在地	(〒245-0016) 神奈川県横浜市泉区和泉町3285-3		
サービス種別 定員等	小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
		通い定員	名
		宿泊定員	名
	レ 認知症対応型共同生活介護	定員計	27名
		工外数	3工外
自己評価作成日	平成22年12月1日	評価結果 市町村受理日	平成22年3月25日

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

基本理念の「リーダーシップは、入居者である」に基づき、一人ひとりの「個性」「尊敬」「生命」を守り、活力ある生活を支え寄り添うようなケアを目指しています。そして、入居者が中心であるといった理念から「ご家族様と一緒に楽しんで頂くこと」を大切にしております。いつでも御家族様が気軽にお越し頂けるように、温かいおもてなしを心がけています。また、運営推進会議が開催されるようになってから、地域の方との交流も深まり、家庭菜園を手伝って頂き、収穫を迎えると、御家族様とカレーパーティーや納涼祭を毎年行っています。また、「敬老会」「クリスマス会」などの催事にもボランティアの方に出演していただく等、温かく見守って頂いていることを感謝しています。今後も、入居者様や御家族様が安心できる温かいグループホーム作りを目指していきたいと思っております。

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名			
所在地			
訪問調査日		評価機関 評価決定日	

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

--

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	ライフコミュニケーション泉
ユニット名	泉ユニット3

アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23,24,25)	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18,38)	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30,31)	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9,10,19)	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9,10,19)	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11,12)	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念を掲げ、理念に基づいてケアを行うように心がけている。理念として、入居者様の1人ひとりの個性や尊厳が守られ寄り添うようなケアを行うように努めている。		
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的とは言えないが、家庭菜園のお手伝いを地域の方がやってくださったり、夏祭り、敬老会などのイベントに招待するなど、交流を図るように努めている。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	以前、介護者教室などを行い地域の方に認知症について、少しでも理解して頂けるようにと思っておりましたが、最近では実践できていない為、今後の課題としていきたい。		
4	3	運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、3ヶ月に1回の割合で開催し、運営状況を報告している。区の担当者や包括支援センターの担当者の方にも毎回出席していただき、アドバイスを頂いている。		
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	泉区認知症高齢者グループホーム連絡会に参加し、情報交換を行っている。消防署からの情報や各事業所との意見交換を行うなど区担当者からのアドバイスも頂く機会を持つようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修や全体会議にて「拘束」について話をする機会を設け正しく理解してもらうように努めている。また、鍵をかけない代わりに鈴などで無断外出などの事故を予防するように努めている。		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見 overs されることのないよう注意を払い、防止に努めている	内部研修にて職員が再認識する機会をもつようにしている。 職員一人ひとりが理解し、日頃から意識することが、大切だと周知している。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加し学ぶ機会をもつようにしている。実際は、対応する機会も少ないが今後、必要性があれば、対応していきたい。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前には必ず、重要説明書を読みわかりやすく説明しているが、不十分なところがないかどうか、確認しながら行なっている。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的に家族懇談会を行っており、意見や要望などを聞く機会を設けている。また、玄関に意見箱を用意し自由に、意見が記入出来る様にしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	施設長会議、全体会議を行い運営に関する意見などを聞く機会を設けている。また、会社の本社から、社長や支店長、取締役などが、施設に巡回に来られ現場職員の意見を直接吸い上げ、意見を聞いて対応してくれる。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人では、施設巡回を重視し職員や管理者の勤務状態を把握し、必要に応じヒヤリングを行うなど、現場の様子を把握し勤務条件の整備をしている。		
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内外部研修を積極的に、行うように、現場に指導している。また、法人では、ヘルパー2級講座などを開講しており、働きながら、資格取得が出来るようにしている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	横浜市や神奈川県グループホーム協会に入会しており、協会の主催する研修などに参加し、情報交換や交流を深めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には、アセスメントに行き状態を把握すると共に、困っていること、要望などを聞き、安心してサービスを受けられるよう努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族と面談する中で、今までの状況や困っている事や要望などを聞き、安心していただけるように努めている。また、困ったことがあれば、いつでも相談して欲しいことを伝えている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要とされている支援を把握し、状況に応じた適切な支援を行うように努めている。また、場合によっては、他のサービス機関に連絡をとるようにしている。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の残存能力をできる限り、活かし生活の中でお花を飾って頂いたり、洗濯たたみなどを手伝ってもらい、共に生活していく環境をつくるように努めている。		
19		本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	お正月など、自宅に帰宅できる場合は、出来るだけ可能になるように支援し、家族と本人の意向に沿うようにしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今まで関って来られた関係が、途切れないように支援している。親戚の方からの電話がかかってくる時があるが取りついでいる。はがきのやりとりなども支援している。		
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様の中にも、気の合う人合わない人はいらっしゃると思われるが、職員が把握し、状況に応じ関るようにしている。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	年賀はがきを出したり、退居後の様子をご家族に連絡をし、様子を伺うなど連絡を取っている。また、入院している場合は、面会に行くようにしている。退居後も家族様からの連絡もある。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	自分の思いや希望を言葉で表す事が困難な方であっても、顔の表情や今の辛い事をくみ取り、一人ひとりの把握に努めている。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や個人の意見を尊重するように努めている。家族からの情報や本人からの情報を収集し、サービス提供に努めるようにしている		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の生活習慣などを把握し、状態観察に努めている。日々の排泄や食事などのチェック表により、心身状態などの把握に努めている。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ユニット会議などを行い、ケアの見直しをし、話し合いの場を持つようにしている。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	情報を共有する方法として、朝の申し送りや業務日報などで確認して介護記録に反映するようにしている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様やご家族様のニーズに応じて訪問診療や訪問歯科診療、訪問美容など柔軟にサービスを取り入れるように工夫している。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの協力も得られ、家庭菜園の方法などを教えていただき、一緒に草花を育てている。入居者様も楽しみにしている。		
30	11	かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院などがあるが、本人の希望やご家族様の希望をお聞きして、受診先を決めている。		
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員や訪問看護は入っていませんが、法人内に勤務している為、相談などがいつでも可能である。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院に関してだけでなく、受診する際でも協力して頂いる。認知症の方は、入院などを断わられてしまう事が多い中で、相談に応じていただいている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>ご家族と面談し主治医の指示の元、施設で可能な限りケアを行うようにしているが、看護師が常駐していない為、ご家族との連絡を大切にしている。</p>		
34		<p>急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>救急法など消防署にて研修があった場合は出席している。内部研修にて報告し、情報を共有している。また、緊急マニュアルがあり、参考にしている。</p>		
35	13	<p>災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>非常用の食材、備品は常備している。災害に関しては、自治会の訓練に参加している。現在、自治会にて協力できる体制を構築中である。</p>		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーについては、十分に注意している。トイレに行く時や排便などの時も、声かけには注意するように、心がけている。特に言葉遣いには気配りが大切であると周知している。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意向や要望などを伺うようにして自己決定を促すようにしている。献立を一緒に立てたり、衣服の選択など、自己決定出来る様に支援している		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人のペースに合わせ個別ケアを行うように心がけている。食事の時間が、個人によって遅くなることもあるが、ゆっくりと個人のペースを大切にしている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	必要に応じ理美容にて、きれいにしているが髪型などは、本人の意見を尊重している。衣類も自由に選んで着ていただくようにしているが、汚れている場合は、随時取り替えるように促している。		
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立に入居者様の好きなものを聞いて作ったり、時々、出前を頼んで楽しんでもらっている。準備や片付けは出来る範囲で手伝ってもらっているようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>水分、食事摂取量などのチェック表を作成し、1人1人を把握している。また、1日分のトータル量なども記入している。水分は、好みの物をお出ししている。</p>		
42		<p>口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>口腔ケアについては、毎食後行っている。義歯洗浄も毎回行う。必要に応じ訪問歯科医に診ていただいている。</p>		
43	16	<p>排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている</p>	<p>排泄チェック表やお一人おひとりの排泄パターンを把握するよう努めている。自尊心を傷つけないように声かけを行うよう心がけている。</p>		
44		<p>便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>下剤をできるだけ服用せず、食事やおやつなどにヨーグルトや乳製品を摂るようにし、便秘改善に努めている。また、お腹のマッサージやラジオ体操を行っている。</p>		
45	17	<p>入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>入浴日については、基本的には毎日入浴できる体制をとっている。日曜日は、ご家族様の来設が多い為、ご家族様との時間に当てるようにしているが、必要に応じ入浴している。</p>		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの体調などにより休息が必要な方には、日中も心身ともに、過度な疲労にならないように、個別に対応するよう心がけています。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬チェック表などにて、確認できるようにしている。また、処方内容をファイルしてあり、いつでも見て確認出来る様にしてある。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	調理などは、難しい方が多い為、昔お花の先生をされていた方に、お花を飾って頂くようお願いしたり、日頃から歌が好きな方には、イベントの祭に、ご披露できる場を設けている。		
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	遠くまでの外出は、なかなか出来ていないが、近隣の牧場や家庭菜園の草花を採りに行ったり、その日の気分や体調を考慮しながら行っている。		
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理については、法人で立替ることが決められているが、外出した祭お金の支払などを、職員と一緒にするように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が、家族へ電話したいという希望があれば、対応しています。また、本人宛の手紙が届いた場合は、お礼の電話をかけるなどの支援をしています。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	安らげる空間作りを心がけています。カレンダーなども自然な風景画を飾るようにしている。また、庭に咲いたお花などを、飾り落ち着いた雰囲気でも過ごせるように支援している。		
53		共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの周りに、いつでも自由に座れるように、椅子を置いてありフロアを歩きながら、疲れたら、休憩出来る様に工夫している。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前から、使い慣れた身の回りの物があれば、持参して頂くようにしています。家族様から送って頂いた写真なども飾り、できるだけいままでの環境と同じ様に設置するように努めている。		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや浴室、また、居室などの表示をわかりやすく、工夫している。（絵や表札など）できるだけ安心して、生活できるように心がけている。		